

「頑張ってください」の

メッセージが次々と

9月1日スタートした「被ばく船員訴訟支援プロジェクト」のクラファンには176万円の支援と、激励の声が120通を超えて寄せられています。その中から一部ですが紹介させていただきます。

176万円
(35%到達) 9.29 現在

▼68年前のビキニ水爆実験で高知県の乗組員・漁船が最も多く被ばくした「事実」。これをきちんと伝え、核のない地球社会と取り組む方々への何ほどのかご支援になればと思います。写真集『NEWS』は、まだ「事実を知らない子どもたちに送ります。」

▼大切な裁判です
原告のみなさんの 命がけの闘い
心から応援します
ビキニ事件は終わっていません

▼裁判を通して政府の意図的な無作為の実態が少しでも明らかになり、被対する補償が進むことを期待します。時間の経過に伴って事実の掘り起しが難しくなってきましたが、少しでも早く勝訴の日を迎えられればと思います。

▼68年経ってもなお、元まぐろ漁船乗組員だったみなさまが苦しみ続け、裁判が続いていることをお知らせいただきありがとうございます。わざわざありがとうございます。支援をさせていただきます。

核実験と、それによって放射能を浴びるという事故も、さらにそれが隠蔽されるということも人災です。なんとか正当な判決が下され、みなさまの68年間の救済されることを願う自分ができることを考えます。

▼未だにビキニ事件は終わっていないという事実にも愕然とする思いです。原発事故による核の被害もこのように長く続くのだらうと思うと原発も含めたすべての核を一刻も早く廃絶しなければと思います。長い間の闘いに感謝し、応援します。

▼全く知りませんでした。事実も知らされないまま、国から何の補償を得ることもなく亡くなっていった方々、「遺族、そして長年闘ってこられた方々の無念に思いを致します。ファンディングの成功と裁判の勝利を祈念いたします。」

▼核実験が行われることを知っていたにもかかわらず、被害を生じさせ、さらに長きにわたって隠蔽した政府には、必ずや責任を取らせなければならぬと思います。国は国民の健康と命を守る責務がありますし、労働者への安全配慮、規制権限の不行使等についても責任があると思います。

▼新聞記事で知りました。「米国への損害賠償請求権が日米政府のお政治決着で失われた」と。日米地位協定が「にも、なんですね。日本政府は国民のほうを向いていない。SDGsを語る資格はありません。そんな政府を許してきたのは私たち大人の責任です。」

貨物船「弥彦丸」の被ばく

マグロ船だけではなく

弥彦丸(約7000トン)は北海道小樽市板谷商船のリン鉱石運搬船。1954年4月30日、弥彦丸は赤道南のマカテア島からリン鉱石を積み込み、水爆実験「ネクター」(5月14日)の数日後、近海を通過した。

5月30日、東京に戻るとガイガーカウンターによる検査が全員に行われ、その後体調不良を訴えた12名が岡山の三井病院に入院。内6名が白血球異常で岡山大学付属病院に転院。医師は「放射性物質による白血球減少の疑いあり」の所見を発表。



弥彦丸乗組員



故・山本勤也さん

私の父、山本勤也は、貨物船「弥彦丸」の船医として乗船しました。ビキニ環礁近くを通過中に、父はビキニ環礁で核実験が続行されていることを知って「雨に濡れるな」と全乗組員に指示し、自らも甲板で傘をさしていたそうです。6月15日には、自宅の玉野市に帰ってきました。ところが、船員たち12人が身体の調子が悪くなって岡山大学付属病院に入院することになりました。船員たちは、嘔吐、下痢、頭痛、食欲不振、倦怠感などの症状がありましたが原因は分からなかったようです。

そのうち6人の船員たちが、白血球が3000〜4000に減少したことから、病院の医師たちは「放射線物質による白血球減少の疑いあり」との所見を発表しました。

父は色々な病気をしましたが、放射能による原因かどうか分かりませんが「骨髓異形成症候群」で、平成20(2008)年2月18日に亡くなりました。

原告(遺族)の証言

『クラップン NEWS』
2022.9.30 No5